

### 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月19日

#### 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4675300208号		
法人名	特定医療法人 大進会		
事業所名	グループホーム ぽっぽえん		
所在地	鹿児島県 始良郡 始良町 池島町 26-6 (電 話) 0995-65-3208		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年7月14日	評価確定日	平成21年8月1日

【情報提供票より】 (平成21年6月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤15人 非常勤1人 常勤換算	15.5人

#### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋 造り	
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	30,000~31,500	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有 ( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

#### (4) 利用者の概要 ( 6 月 1日現在 )

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	8 名	要介護2	6 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87 歳	最低 64 歳	最高 99 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	希望ヶ丘病院
---------	--------

#### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街にあるホームである。自治会に加入し、地域の運動会や文化祭などに参加したり、運営推進会議や災害対策など地域住民と協力関係が築かれている。母体病院や法人の介護老人保健施設・訪問看護ステーションなどと連携が図られ、勉強会など充実している。職員は一人ひとりの入居者を受け止め、支援上の課題についても全員で話し合い解決していくよう努めている。季節の花を飾り、入居者に配慮した料理など家庭的な雰囲気のあるホームである。

#### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	災害対策については、定期的な訓練の実施など、消防署や地域住民との協力関係も築かれており、課題は改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は評価の意義をふまえ、全職員で話し合い前向きに取り組んでいる。評価を活かして改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催し、ホームの状況や評価について報告し話し合っている。委員の認知症への理解や地域住民との交流などの充実につながり、会議での意見やアイデアがサービス向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用料納入時や面会時に声かけし、要望や意見等聞くようにしている。意見等は職員会議で話し合い、運営推進会議にも報告し、サービス向上に活かすよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、自治会の運動会や文化祭・生き生きサロンに参加している。地域の小・中学校の体験学習やボランティアの受け入れなど、積極的に地域住民と交流している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について職員会議で再確認し反省点を話し合い、理念に添った月間目標を決めている。職員は理念を共有して毎日のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、自治会の運動会や文化祭・生き生きサロンに参加している。地域の小・中学校の体験学習やボランティアの受け入れなどを通じて、積極的に地域住民と交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義をふまえて、全職員で話し合い前向きに取り組んでいる。評価を活かして改善点に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、ホームの状況や評価について報告し話し合っている。委員の認知症への理解や、地域住民との交流などの充実につながり、会議での意見やアイデアがサービス向上に活かされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ぼっぼえん便りや運営推進会議録を届けるなど、日頃より情報交換や相談などをして、共にサービス向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に入居者の様子を報告したり、行事の様子等の写真を掲載した「ぼっぼえん便り」を毎月発行し、送付している。健康状態や受診の報告は電話で行い、金銭管理は面会時やコピーを送付し確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料金の納入時や面会時に声かけし、要望や意見を聞くようにしている。聞いた意見等は職員会議等で話し合い、運営推進会議でも報告し、サービス向上に活かすよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による影響に配慮し、管理者は採用時の面接に立会い、経験者の採用や勤務の調整など工夫し、職員のユニット間の交代など、全職員が両ユニットの入居者と馴染めるよう工夫している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会や講演会などに交代で参加し、研修報告をして全員で内容を共有している。法人やホームでの勉強会も計画し、職員を育てる取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域のグループホーム連絡協議会に加入し、勉強会や交流会に参加している。協議会で他のホームの見学をする活動があり、協力し共にサービスを向上させていく取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申込があればホームの見学を勧め、本人との面談や家族、担当ケアマネージャーとの連携に努め、徐々に雰囲気馴染んでもらえるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごしながら人生についての貴重な体験を聞かせてもらったり、切干大根や漬物・梅干し・金柑漬け等の保存食の作り方など教えてもらっている。共に支えあう関係が築かれている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からいろいろな話を聞き、思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合は言葉や動作から、気持ちを汲み取り本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族からの聞き取り、主治医や関係者からの意見を参考に、職員会議で話し合い利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況変化は連絡帳に記録し、支援経過にモニタリングし、期間や状態変化に応じて職員会議で話し合い介護計画の見直しをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、母体病院や訪問看護師と連携し、健康管理を行っている。家族と相談し通院介助や特別な外出など柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。主治医や訪問看護師と連携し、リハビリなども継続して支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携の方針を説明し、本人・家族の同意を得ている。本人・家族の希望を尊重し、主治医や関係者・職員で必要時には話し合いを行い、方針を共有し対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時に誓約書を交わし、個人情報保護について徹底している。言葉かけや対応も誇りやプライバシーを尊重している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・就寝など入居者一人ひとりのペースを尊重しながら、生活のリズムを把握している。散歩やレクリエーションも希望を聞いて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に、畑の野菜を収穫したり・買い物に行ったり・調理の下ごしらえ・後片付けなどを行っている。誕生日は献立の希望を聞くなど食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各ユニットで交互に入浴日を設定し、入居者の希望を尊重して入浴している。入浴剤を利用して温泉気分を味わう等、入浴を楽しめるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや調理の下ごしらえ等の役割の他、毎日の体操やレクリエーション・歌・踊りなどの楽しみごと、季節の花見や外食など気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、庭のベンチで過ごしたり・畑の野菜の生育状況を見たり・近隣の散歩に出かけている。ドライブをかねて買い物や公園・海岸に出かけることもある。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は、見守りや連携プレーで、鍵をかけないケアに取り組んでいる。地域住民の協力もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に地域住民の参加を得て、避難訓練や消火訓練を実施している。台風前は水や食糧など準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックし記録している。法人内の栄養検討会に参加し、栄養バランスについて話し合い検討している。刻み食など入居者に会った支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な日射しや光をさえぎる工夫があり、玄関・リビングなどにソファやベンチが配置し、四季の花が飾られ居心地の良い過ごしやすい共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅と同じように仏壇や使い慣れたテーブル・時計などを持ち込み、ぬいぐるみや写真などを飾り入居者が安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。